

病理学概論		講義	教授 澁谷 正史 教授 西川 彰
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12321301

1. 授業のねらい・概要

病理学では、病気に陥った身体にどのような変化が生じているのかを明らかにし、それにより病気の原因を究明することを学びの基盤としている。さらに、病気の診断や治療、予防にも関わることから臨床医学や予防医学の根幹ともなる学問である。この授業では、疾病の基本（分類、症状、経過、予後など）と病因を学ぶことから始め、その後は、細胞傷害、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常（アレルギー）、腫瘍、先天性異常について順次学習を進めていく。また、単元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、テキストに記載されている病理学的所見などのスケッチも加えた上で、「病理学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス 病理学とは	8. 進行性病変①（肥大と過形成、再生、化生）
2. 疾病の一般（疾病の意義と分類、経過、予後、転帰）	9. 進行性病変②（創傷治癒と異物処理、移植）
3. 病因（内因と外因）	10. 免疫異常、アレルギー
4. 細胞傷害①（退行性病変）	11. 腫瘍①（腫瘍の概念）
5. 細胞傷害②（代謝障害）	12. 腫瘍②（腫瘍の分類）
6. 循環障害①（血液の循環障害）	13. 先天性異常
7. 循環障害②（リンパ液の循環障害、脱水）	14. 運動器の病理
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「病理学レポート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、病理学用語をただ暗記するだけでなく、病気の原因とそれによる身体の変化との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70%程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『病理学概論 第3版』, 医歯薬出版, 2012年

その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。